棺桶に風邪薬を入れる男の子と
それを「かわいい」と思う親のレイヤー

岡部 竜弥

葬式。
数人が順番にお焼香をあげ、棺桶の中をのぞき、数言投げかけて移動する。
お経と数人のすすり泣く声が響く中、順番が回ってきた男の子が棺桶に
風邪薬を入れる

大人1　ねえ、あの子。風邪薬入れてる。
大人2　ああ、かわいそうに。まだどういうことか解ってないんだよ。
大人1　よく一緒に遊んでたわよね。小学校に入る前
大人2　ああ、仕事がある時に。すごく楽しそうにしてた
大人1　あの子が小さいうちでよかった
大人2　おいっ

男の子　大人たちは、と言うより僕を子供だと思ってる人たちは、なんだか自分勝手だ。「子供だから」「何にも知らないから」だとか。
今だってそうだ。僕だってもう小学生に上がって一年以上経つ。お姉さんが、なんというか、こう（「自殺」以外の言葉を探して）、「さよなら」をしたってことくらいわかる。
それをはっきり言葉にするのは、なんだかとてもグロテスクなことだっていうのも、わかる。「風邪だと思ってる」なんて、もってのほかだ。
じゃあ何で風邪薬なんて入れたと思う？ まあ、大人たちは、というかお姉さんを子供だと思っている人たちにはわからないんだと思う。
僕だって、そうだった。

場転
どこかの高架下（若者がたまる場所なら、どこでも）

男の子　8月23日の夜。多分10時くらい。少なくとも親が「寝なさい」とか言う時間よりは凄く後、僕は家出をしていた。
理由は、やっぱり僕を子供だと思っている大人たちとの喧嘩だった。
確か寝る時間がどうとか、食べる量がどうとか、そんなことで喧嘩してこっそり部屋を抜け出した。
そして

環境音が響く
女の子がいる
女の子、歌舞伎町のトーヨコの子が着るような服を着ている
女の子、誰かと通話している

女の子　いや、だからさぁ————
はぁ、じゃあもういいよ。うん。じゃあね。

女の子、通話を切ってだるそうにしゃがむ
そして、横に置いてあるペットボトルから青色の水を飲む。
男の子、その様子がなんだか恐ろしくなってその場から離れようとする。

女の子　あ

男の子、足を止める

女の子　ええ、とあれだ。あの、703の。
　　ああ～、…ユウキ君！！
男の子　…え？
女の子　ほら、ほら、あたし。ユウカ。
男の子　ああ、ええっと。605の…？。
女の子　そうそう、605号の。
男の子　お久しぶりです
女の子　ああ、お久しぶりです。
男の子　…
女の子　どうしたのこんな時間に。
男の子　…
女の子　子供が外にいていい時間じゃないよ
男の子　…お姉さんだって。外に出てるじゃないですか。
女の子　あたしはいいの。大人だし
男の子　まだ高校生くらいでしょ。
女の子　小学生よりはマシじゃん。
男の子　…
女の子　家出？
男の子　はい。
女の子　ふ～ん
男の子　…
女の子　ねえ
男の子　はい
女の子　なんで敬語なん？
男の子　年上ですし
女の子　ふ～ん

女の子、鞄から缶のお酒を取り出し、蓋を開け飲む。

男の子　ちょ、ちょっと。
女の子　ん？
男の子　ダメでしょ！
女の子　真面目～
男の子　捕まりますよ
女の子　はははっ。大丈夫大丈夫。ここ穴場だし。

男の子、「そういうことじゃないんだけどな」みたいな顔をする
女の子、もう一度お酒を口に運ぶ

男の子　こんなんでしたっけ？
女の子　ん？
男の子　僕が小さかった時、はなんかもっと、真面目だったような
女の子　はははっ。
　　こんなんなっちゃった。

女の子、痛々しく自虐的に笑う

男の子　…そう

男の子　あやとりに失敗した時みたいな顔だった。何だか、僕は、なんというか…、なんとも言えなかった。
（言葉を探るように）こういう時に、何か言われたせいで、僕は家を飛び出した気がするから。
僕が何も言えないでいると、彼女は

女の子　ねえ、帰りなよ。やっぱり子供が外に出ていい時間じゃないよ

男の子　なんてことを言ってきた。
だから僕は

男の子　いやです

男の子　と言ってやった。
気まずかったし、本当はこのタイミングで帰っていしまいたかったんだけど、やっぱり子供扱いは嫌だったから。もうこれは意地だ

女の子　そう。
じゃあさ、少し話そうか
男の子　…はい
女の子　ユウキ君ってさ、今何年生だっけ
男の子　一年生です
女の子　そっか。
学校は楽しい？
男の子　そこそこは
女の子　ははっそっか。
そこそこか。
男の子　お姉さんは、どんな感じなんですか
女の子　あたしはねえ、…そこそこかなあ
男の子　そうですか。
女の子　半分くらい、楽しいって感じ
男の子　半分？
女の子　友達と会うのは楽しいけど、勉強はめんどくさいとかあるでしょ？
そんな感じ
男の子　なるほど。
じゃあ、僕と同じだ。
女の子　…
男の子　あの
女の子　ん？
男の子　さっき誰と喧嘩してたんですか？
女の子　喧嘩？ …ああ、あれね。
ちょっと友達にドタキャンされてね
男の子　ドタキャン？
女の子　（少し笑ってから）もうすぐ時間なのに急に約束をなしにすること

男の子　　それは、いやですね
女の子　　でしょ？ だから喧嘩したの。
　　しかもね、今日は大事な用事だったから
男の子　　大事な用事？
女の子　　秘密。
　　そりゃあさ、酒の一つでも飲みたくなると思わない？
男の子　　飲んだことないから分からないですよ
女の子　　そりゃそっか
男の子　　…飲んでみてもいいですか？
女の子　　だめっ～
男の子　　別にいいじゃないですか
女の子　　未成年は飲んじゃいけません
男の子　　お姉さんだって未成年じゃないですか～
女の子　　成人は18歳からになったんです～
男の子　　お酒は二十歳からでしょ

　　女の子、お酒を飲み干してしまう

男の子　　あ～
女の子　　二十歳まで待つんだね
男の子　　お姉さんが言わないでくださいよ
　　ああ、じゃあ、さっきのやつ飲ませてくださいよ
女の子　　さっきのやつ？
男の子　　なんか、青いやつ
女の子　　…あ～、あれはねぇ。
　　絶対ダメ
男の子　　え～あれもお酒なんですか？
女の子　　いや、お酒じゃないよ
男の子　　え、じゃあ
女の子　　でもだめ
男の子　　え～。なんでですか
女の子　　ダメなもんはだめ。
　　っていうか人の飲み物をねだらないの
男の子　　…

　　男の子、むくれている
　　女の子、そんな男の子を見て微笑む

女の子　　ねえ
男の子　　…なんですか？
女の子　　この服、どう思う
男の子　　似合ってると思いますよ
女の子　　（満足そうに）そっかそっか
男の子　　でも、なんかテレビで見る東京の人が着てるみたいな服ですね
女の子　　そうそう、ああいう場所（歌舞伎町辺りのことを指しています）に行ってみたくて
男の子　　そうなんですね
女の子　　知ってる？ あそこってさ子供が一番大人な場所なんだよ

男の子　　子供が、一番大人？
女の子　　そうそう。
男の子　　ええっと。
女の子　　ああ～、ええっと。
　　まあ、「どんなに子供扱いされてても、大人のつもりでそこに居れるところ」みたいな感じ（段々と自信がなくなって）
男の子　　なるほど。なんか、楽しそうですね
女の子　　多分、楽しいよ
男の子　　お姉さんは大人になったら、そこにいくんですか？
女の子　　大人になって行っても意味ないでしょ
男の子　　じゃあ高校を卒業したらとか
女の子　　ん～。難しいと思う。
　　わざわざ上京するほど、…頭よくないし
男の子　　…
女の子　　だからこうやって、服装とかお酒とかであそこの真似してるの
　　ジェネリックよジェネリック。
男の子　　…ジェネリック？
女の子　　（笑ってから）ぽいやつってこと
男の子　　難しい言葉ばっかり使わないでください
女の子　　ごめんごめん。
　　…いやあ、懐かしいね。こんな感じでユウキ君いるの
　　ああ、でもあの時はもっとわんぱくだったから「懐かしい」とは違うか
男の子　　年中の、僕がまだ子供の時です
女の子　　まだ子供でしょ
男の子　　小学校に上がったんですよ？
女の子　　小学生じゃん。
男の子　　非小学生より大人です
女の子　　なに非小学生って
男の子　　小学生じゃない人です
女の子　　じゃああたしも非小学生じゃん
男の子　　…

　　男の子、何も言い返せなくなって、またむくれる

女の子　　まあ、いやだよねえ。子供扱いされるのって。
男の子　　はい
女の子　　わかってるんだけどさあ。
　　例えばさ、車乗れないとか。選挙いけないとか。お酒飲めないとか。飲んでるけど。なんかそういうことじゃなくて、「子供だろう」みたいなのが
男の子　　…話を真面目に聞いてくれないんですよ。
　　いっぱい考えて、たくさん悩んで、それでようやく思いついて、そこから勇気を出して言ったのに、なんだか「積み木頑張ったね」みたいな感じで。
女の子　　…そっか
男の子　　「間違えてるよ」と「間違えてるだろう」ってなんか、なんか違うじゃないですか。それが、なんだか解ってもらえなくて。
女の子　　どういう内容だったの？
男の子　　え？
女の子　　今言ってたのってさ、どういう内容だったの

男の子　　いや、たくさんあるし
女の子　　いいよ。別に
男の子　　いや、でも
女の子　　あたし、大人だし。

男の子、「ええっとじゃあ」と自分が考えていることを話始める
「なんで人は生きるのか」とか「何で会話をしなければならないのか」とか
なんだか背伸びしたものから「鳥はあんなに集団で飛んでいて危なくないのか」
「海はなんで大きいのか」のような等身大の自分の考えを話始める。それらの内容
の中には幼い間違えをしているものもあれば、大人がハッとするような内容のもの
もある。
女の子、時折相槌を打ちながら、不安がる男の子を安心させるように微笑み抱えながら、
それでも真剣さが伝わる顔で男の子の話を聞く
男の子、話をちゃんと聞いてくれる姿に嬉しくなって、段々と涙ぐんでいく。
女の子、男の子の涙を拭いてあげたりする。なんだか、少し泣きそうになっている。
少しして、男の子は泣き止み恥ずかしそうにしており、女の子はいたずらっぽく笑って
る。

女の子　　泣き止んだ？
男の子　　別に、泣いてないです。
女の子　　ははは、それは無理あるって
男の子　　…真面目に聞いてくれてありがとうございます
女の子　　どういたしまして。
男の子　　あの、お姉さんって、引っ越したりしてます？
女の子　　あの時のままだよ
男の子　　ああ、あの、じゃあまた、前みたいに一緒に遊んだりとかってできますか？
女の子　　…（無理やり表情を作って）う一んどうかなあ。あたしも、学校とかある
し。
男の子　　だめですか？
女の子　　難しいかもね
男の子　　そうですか…
女の子　　……
これ、中身知りたい？

女の子、青い色の水が入ったペットボトルを見せる

男の子　　え、飲んでいいんですか？
女の子　　あ、いや。飲んじゃだめだけど
男の子　　え～
女の子　　これね、風邪薬。とかして飲んでるの。
男の子　　え、風邪なんですか？
女の子　　いいや、全然
男の子　　じゃあなんで風邪薬なんか
女の子　　バカは風邪引かないって言うでしょ？
風邪をひかないバカに、風邪薬を飲ませると、バカじゃない人が治る分の力
で元気になれるんだよ。

女の子、なんだかいたずらっぽくそう言う。

男の子、その話を本当の意味も解らず真剣に聞いてる

男の子　　え、でも。お姉さん。バカじゃないでしょ。
女の子　　…
女の子、その言葉を聞いて笑いだす

女の子　　（笑いながら）ああ、そっかぁ。そっかそっか。バカじゃないか。

女の子、男の子に全力で抱きつく
男の子、慌てる

男の子　　え、いや。ちょっと
女の子　　ありがとね。
　　でもねえ、今更バカ以外はねえ

女の子、男の子から離れる。

女の子　　じゃあ、そろそろ帰りな。
男の子　　え、ああ、はい。
　　あ、いやっ、お姉さんは…？
女の子　　あたしは、ちょっとやることがあるから。
男の子　　じゃあ、待ちますよ
女の子　　大丈夫
男の子　　いや、でも
女の子　　いいから。

男の子、女の子に背中を押されてその場から去る

男の子　　家に帰ると、やっぱりお父さんとお母さんに怒られた。
　　心配したとか。大事になったらどうするんだとか。そういう感じで
　　そして、その途中の、ちょうど「学校でいやなことでもあったの？」
　　ぐらいの所で、下の階からすごく大きな声が聞こえてきた。
　　なんか、こう、とても高い声の。多分、女の人の。
　　その声で説教は中断して、親が外に様子を見に行ったタイミングで、僕は布
　　団に入った。

場転
葬式

男の子、大人1と大人2の所に戻ってくる
大人2、男の子の頭を力強く撫でる。
大人1、その様子を見て目が潤む
男の子、何を考えているかわからないような顔でうつむく

男の子　　お母さんたちは、僕らの、お母さんたちは何にも知らない
　　僕もあんまり知らないけど、大人たちよりは、多分、知ってる、と思う。
　　だから、今だけはなんだか、子供でよかったなって、同じ、子供でよかった
　　なって、思う

大人1　　ユウキ。もう少し大きくなったらわかるからね
男の子　　…うん

FIN

女の子…男の子と同じマンションに住む高校三年生
学力や友人関係で悩んでおり、親もあまり取り合ってくれなくて追い詰められている
トーヨコのあの雰囲気に憧れている、ことにして現実逃避をしている
物語中の日に、友人と身を投げるつもりだったがその相手がドタキャンをしてしまう。
男の子…女の子と同じマンションに住む小学一年生
親の子供扱いに嫌気がさして家出をする。